

平成29年度第4回政策会議

日時 平成30年1月11日（木）10:10～10:25

会場 市長会議室

参集者 工藤市長 中林副市長 片岡副市長 川越企業局長 辻教育長
種田企画部長 小野総務部長 入江財務部長

2 函館市スポーツ推進計画（素案）について

◎対応 小林生涯学習部長 佐藤生涯学習部次長 鶴喰生涯学習部次長
阿部管理課長 町谷スポーツ振興課長

◆ 議題の趣旨 ◆

函館市スポーツ推進計画（素案）について協議しました。

◆ 協議の結果 ◆

高齢者の記載については検討することとするが、本件の内容は了承されました。

◆ おもな発言 ◆

■ 小林生涯学習部長

函館市体育協会や関係団体等から意見をいただき、諮問機関である函館市スポーツ振興審議会でも議論いただいていた。

平成4年にスポーツ健康都市宣言を行い、平成17年にスポーツ振興法に基づく「函館市スポーツ振興計画」を策定し、市民だれもが生涯を通じ、健康を守り、スポーツに親しむことができるよう、スポーツ振興施策を展開してきた。その間、国においては、スポーツ振興法を全部改正したスポーツ基本法を平成23年に制定し、新法に基づく「スポーツ基本計画」を平成24年に策定し、平成29年には「第2期スポーツ基本計画」を策定した。また北海道では、平成25年に「北海道スポーツ推進計画」を策定している。本市においては、スポーツを巡る動きや国や北海道の計画を踏まえ「函館市スポーツ振興計画」を見直し、今後の函館市のスポーツ推進の基本的な方向性を示す「函館市スポーツ推進計画」を新たに策定する。

計画については、3章構成としている。本計画はスポーツ基本法第10条に基づく地方スポーツ推進計画として位置付け、「函館市基本構想」や「函館市教育振興基本計画」等との整合を図りながら策定している。

計画期間については、平成30年度から概ね10年間とするが、必要に応じて計画の見直しを検討している。

基本理念は「スポーツでつながろう！活力あふれる元気なまち函館」、基本目標は「健やかな心身を育むスポーツの振興」としている。基本方向として、「子どものスポーツ機会の充実」、「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進と環境の充実」、「競技スポーツの促進」の3つを掲げ、各種取組を展開することとしている。

■工藤市長

運動部活動の充実の項目があるが、クラブ活動がなかなか成り立たないところもでてきているので、将来的な方向性として学校クラブ活動から地域クラブ活動への移行ということについては考えていないのか。

■小林生涯学習部長

中体連等があるなかで、現時点ではなかなか難しいと考えている。外部指導者の活用やスポーツ団体との連携、地域スポーツクラブへの参加促進について、盛り込んでいる。

■工藤市長

学校単位の場合、的確な指導者がいない場合が多いので、競技力の向上につながらない。

■入江財務部長

本計画については、ソフト面の取組のみを記載しているのか。

■小林生涯学習部長

スポーツ施設の有効活用という視点で、効率的な管理運営、情報提供、スポーツ開放、近隣市町との協力を記載しているが、ハード整備については記載していない。

■中林副市長

基本方向2「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進と環境の充実」において、高齢者に対する取組の項目がないのはなぜか。

■小林生涯学習部長

基本理念のなかに、「市民だれもが」と記載しており、また、中高年を対象とした各種教室等の充実という項目も設けている。

■工藤市長

中高年ではなく、高齢者について配慮する必要がある。医療や健診とスポーツを結び付けた仕組み作りが必要ではないか。

■種田企画部長

高齢者の記載については検討することとするが、本件については了承とさせていただく。